見つけよう！
ツヤハダゴマダラカミキリ

PEST ALERT

木々を食い荒らすツヤハダゴマダラカミキリが日本に入ってきました
身近にいないか、一緒に探してください

世界の侵略的外来種ワースト100（*注）にあげられている外来種ツヤハダゴマダラカミキリが、東北から中国地方までの広い範囲で見つかっています。国内のアキニレやカツラやトチノキなどの広葉樹を加害しています。このカミキリムシの幼虫は食欲旺盛で、この虫が木の中を食い荒らすと、木がどんどん弱ってしまいます。北米やヨーロッパでもこの虫が侵入して大問題となりましたが、一部の地域では市民と行政が力を合わせることで、そこでの根絶に成功しました。
日本にこの虫が侵入して間もない今を逃すと、被害はもっと深刻になって、そこらじゅうで枯れ木だらけになってしまうことが予想されます。多くの人の目でこの虫やこの虫の被害を見つけることで、日本の木々をまもり、森林を救いましょう。

*国際自然保護連合が定めた外来種の中で、特に生態系や人間活動への影響が大きい生物のリスト

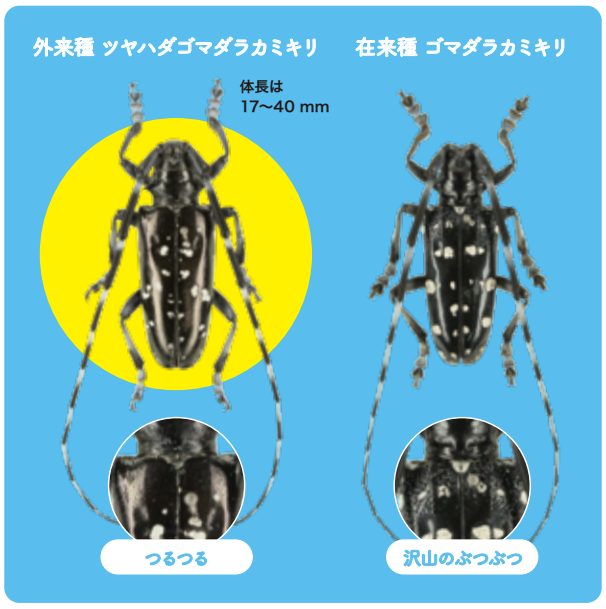
目指すはさらばツヤハダゴマダラカミキリ！

The Road to Eradication

お問い合わせ先
国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所
〒305-8687 茨城県つくば市松の里1番地 E-MAIL sakurakamikiri@ml.affrc.go.jp

ツヤハダゴマダラカミキリの
見た目と暮らし

ツヤハダゴマダラカミキリは、日本に昔からいるゴマダラカミキリとそっくりな見た目をしていますが、全く別の生物です。これらを見分ける最大のポイントは、硬いはね（鞘翅）のつけね近くに、小さなぶつぶつがあるかどうかです。ゴマダラカミキリにはそこにぶつぶつが沢山ありますが、ツヤハダゴマダラカミキリにはありません。
また、体の光沢の違いも、遠目で見分けるときは良いポイントになります。ツヤハダゴマダラカミキリには、体全体にサテンのようなつやが見られる、一方、在来のゴマダラカミキリは表面に凸凹があるのでそのようなつやではなく、質感が異なります。



産卵痕

樹液浸出

脱出孔

ツヤハダゴマダラカミキリは通常、一年かけて卵から成虫になります。成虫が樹木の中から出てくるのは、4月から10月にかけてで、中でも5月から8月には多く見られます。気候が寒冷な地域では、秋になっても成虫が見つかることもあります。
メス成虫は、あごで樹皮をかじって卵を産むための場所を整え、その奥に産卵します。樹皮をかじった場所には、写真のような直径1㎝ほどの丸い傷（産卵痕）がのこります。
産卵痕から樹液が流れ出ることもよくあります。
卵から生まれた幼虫は樹皮下を食害した後、樹木のより内側に深く入り込みます。そこにちょうど身が収まる大きさの部屋を作り、木屑で入り口をふさぎ、中でさなぎになります。さなぎから成虫になると、木の表面に穴（脱出孔）をあけて樹木から出てきます。脱出孔はまん丸いのが特徴で、直径1cm前後の大きさです。

ツヤハダゴマダラカミキリが
食べる木

ツヤハダゴマダラカミキリはさまざまな広葉樹を加害することで、世界的によく知られています。国内では、ヤナギ類、ニレ類、カツラ、サクラ、トチノキ、カエデ類の被害がこれまでに報告されています。特に被害が多いのが、アキニレ、カツラ、トチノキ、ヤナギ類で、これらの木の幹や枝にまん丸の穴があいていたら、本種がそこにいる可能性があります。

ヤナギ被害木
産卵痕と樹液浸出がみられる

アキニレ被害木
脱出孔が樹皮の落ちた所にある

カツラ被害木
上部から枯れている

トチノキ被害木
枝枯れし樹皮が落ちている

カエデ被害木
産卵しているメス成虫

ツヤハダゴマダラカミキリを
探す

ツヤハダゴマダラカミキリは、知らない間に地域に入り込んでしまいます。見た目が在来のゴマダラカミキリに似ているため、成虫を見ても外来種だとは気づけず、沢山の木が同じように弱ってきて、ようやく、この虫の侵入のためだと判明することがよくあります。
まだ、日本への侵入が見つかったばかりの虫なので、木を伐らないで虫だけを取り除く方法は、まだよくわかっていません。この虫を駆除するには、成虫が木から出てくる前に被害木を伐採し、燃やすか細かくチップにするしかないのです。
前述の脱出孔や産卵痕で被害木を探す以外に、幼虫が出す木屑とふんの混合物（フラス）が樹皮からこぼれ落ちることも、この虫が樹木の中にいることのサインとなります。加害が激しくなると樹皮がはがれ始めて、本種のフラスがみられるようになります。

ツヤハダゴマダラカミキリのフラス

この虫に食害された木の弱り方も特徴的です。
成虫が木の上方に産卵しやすいため、こずえの先から枝枯れする被害木が多いです。被害の多い樹種について、下のほうの葉は青々としているのに、枝先がたくさん枯れてしまっていたら、産卵痕、脱出孔、フラスを探してみましょう。
地域でこのカミキリムシの成虫を見つけたり、被害が疑われるヤナギ類、ニレ類、カツラ、サクラ、トチノキ、カエデ類を見つけたりしたら、自治体の環境を扱う部署、または緑地や農地を扱う部署に連絡してください。
自治体のほかに、林野庁森林整備部研究指導課と環境省地方環境事務所でも、報告や相談を受けつけています。
2022年12月現在、本州では宮城県を北端として山口県までの広い範囲で、このカミキリムシの成虫や被害木が散在して見つかっています。

アキニレ被害木

本リーフレットは令和4年度ツヤハダゴマダラカミキリによる被害や防除方法等に関する調査事業（林野庁）により作成しました

もしかして

あなたの街の弱っている木 ツヤハダゴマダラカミキリのしわざかも？

世界の侵略的外来種ワースト100にあげられているツヤハダゴマダラカミキリが、東北から中国地方までの広い範囲で見つかっています。この虫はたくさんの樹種を加害するカミキリムシで、国内ではヤナギ類、アキニレ、カツラ、トチノキの被害がよく見られます。姿形が在来種のゴマダラカミキリとよく似ているため、身近にいても外来種と気がつかないことがよくあります。下の写真のように枯れはじめた木に、1 cmくらいのまん丸な脱出孔が見つかったら、ツヤハダゴマダラカミキリが食害している可能性があります。

木の上の方から葉がなくなり枯れていく お近くにこんな木はありませんか

成虫が木から出てくる時にあけるまん丸な脱出孔

4～10月には木の外にでてきます

外来種と在来種の違いは硬いはねのつけねを見てください

つるつる

沢山の
ぶつぶつ

探すのは
こっち

【外来種】ツヤハダゴマダラカミキリ

【在来種】ゴマダラカミキリ

並木、公園、庭、農地等でツヤハダゴマダラカミキリの脱出孔や成虫を見つけたら、自治体の環境または緑地、農地を扱う部署にご連絡ください。

国立研究開発法人 森林研究・整備機構　森林総合研究所